

富永先生ありがとうございました。

愛知淑徳学園理事長・学園長

小林素文

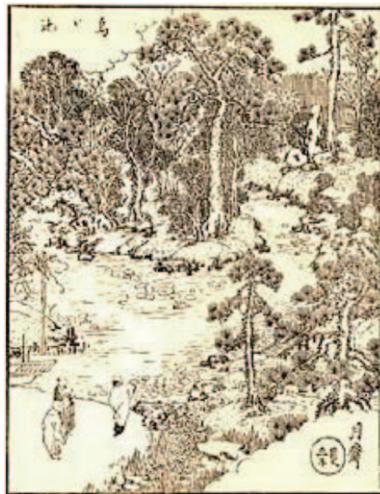


図 尾張名所図会

名古屋市東区に、徳川宗春の生母ゆかりの名刹、富永山・養念寺があります。その境内にある「鳥ヶ池」は江戸時代から名園として知られ、尾張名所図会にも描かれています(図)。

この名刹の前住職、富永伸先生が本年七月三日、八九年に及ぶ人生の幕を閉じられました。

先生は、大谷大学をご卒業後直ちに、愛知淑徳中学校・高等学校国語科の教諭に赴任され、以来六五歳の定年まで、中高の教育の向上に尽力されました。

中高定年後も、愛知淑徳短期大学国文科の教授として、十二年間にわたり短大教育の一翼を担つていただきました。

中高で四年、短大で十年、合計二年。半世紀を越えるご尽力に心よりお礼を申し上げます。

ありがとうございました。

先生は教諭・教授として愛知淑徳に貢献されただけではありません。私の父、小林素三郎前理事長・学園長が最も頼りにされた先生であります。

戦後の混乱期、続いて起った生徒の急増期、富永先生は副校長として、素三郎校長を支え、中高は、教職員

一丸となり、困難な時代を乗り越えていきました。それが、愛知淑徳の躍進への礎となりました。

昭和五〇年、学園の長年の念願であった四年制大学の認可がおりると、父は草創期の最も大切な時期、学長職に専念すべきであると判断し、十九年務めた校長職を辞する決心をしました。この決断に、一点の迷いもなかったと思われます。全幅の信頼を寄せる富永先生がおられたからです。

その後、富永先生は中高の校長として、父は大学の学長として、愛知淑徳の発展に寄与されました。

父を支え、中高の充実を図つて下さった先生に、深甚なる感謝を申し上げます。

ありがとうございました。

富永先生は、短大教授を辞された後も、学園の理事として、ご尽力いたしました。

ありがとうございました。

※



富永先生、ありがとうございました。

先生の法名は、淑厚院釋伸曜、喪主のご住職様にお伺いすると「父がよなく愛した愛知淑徳の淑を外す訳にはいかないと思いました。」とのこと。誠に光栄に存じました。

ご住職様からはお聞きしていませんが、淑厚院の厚は、富永先生の温厚なお人柄を表しているように思われます。

怒った表情を見せたことがない温厚さと、ぶれることがない芯の強さを合わせ持たれた先生を、誰もが慕い頼りにしていました。

葬儀の当日は、大勢の愛知淑徳の旧教職員や卒業生が、真夏の太陽の下、万感の思いで出棺のお見送りをしていました。